かわら版いわしろ

～集落支援員だより

「提灯は祭りを盛り立てる不可欠なもの。日本伝統の提灯の魅力を広めていけたら嬉しいです」

小浜で長年提灯店を営んでいる伊藤喜市さんに、提灯作りを始めたきっかけや現在までの軌跡を伺いました。また、助手を務めている孫娘の大内絵里菜さんに手伝い始めた経緯や抱負等を伺いました。

▲紋付祭りの提灯を前に、伊藤喜市さんと大内絵里菜さん

Q 提灯を作り始めた経緯は？

私の父が和傘職人だったので小さい頃から手伝いをしていました。二十歳の頃、和傘の他にも何か始めたいと思い、提灯に着目。和傘作りに近いところがあると思い、広瀬の提灯屋さんに作り方を習いに行くことにしました。

今の提灯の骨組みは針金ですが、当時は竹を切り出し、割って骨組みとなるひごを作っていたものです。竹の組み方や紙の貼り方を一日で教わって、後は自分で試行錯誤を重ねて作り方を工夫。大工さんに色々な型を頼んで提灯作りを始めました。

▲文字を書くのが一番難しいそう

Q これまでの軌跡について

昔は自分で提灯の紙を貼っていたのですが、今は紙の貼られている提灯を取り寄せています。お盆とお祭りの時期は特に忙しかったですが、コロナの時期は注文も少なく静かでしたね。

今年は何年かぶりにあちこちで祭りが開催されるので、二本松市内だけでなく福島市や伊達市、郡山市からも注文が入っています。提灯を作る職人が県内でも少なくなったからでしょうね。

この秋も地元、小浜の紋付祭が開催されますので、久しぶりに大忙しです。幸い孫娘が手伝いにきてくれているので、本当に助かっています。

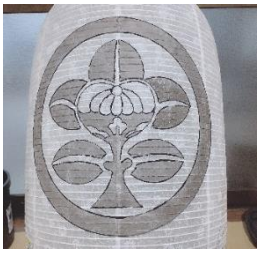
Q 絵里菜さんの思いや夢は？

昨年、祖母が他界し、祖父の提灯作りを手伝う人がいなくなったことと、私が仕事を辞めた時期が重なり、提灯作りを手伝うことになりました。祖母の新盆用の提灯を自分の手で作りたいと思ったのも大きな理由でした。

最初の作品は祖母の提灯です。家族全員が思いを込めて筆を入れました。手伝い始めて一年と少しですが、昨年は結婚式に飾る提灯の依頼も入りました。

提灯を暮らしや行事に取り入れる人が減少しているのは寂しいことですが、提灯の良さを見直してくださる若い世代がいることを嬉しく感じています。

小浜で生まれ育った私にとって、提灯は大好きな祭になくてはならないものです。まだまだ半人前ですが、提灯の魅力や可能性を少しずつ発信していきたいです。



▲絵里菜さんが初めて筆を入れた祖母の提灯

▲喜市さんが文字、絵里菜さんが絵付けを担当

小浜・紋付祭の魅力＆楽しみ方は？

小浜地区では毎年10月第２土曜・日曜日に紋付祭が盛大に開催されます(今年は７日・８日に開催)。お祭の特徴や魅力、楽しみ方を紹介します！

◆魅力その①：本祭（日曜日）の日中に行われる「御神輿渡御(おみこしとぎょ)神事」は、御神輿に４台の太鼓台と紋付羽織袴姿の氏子が町内を練り歩きます。昔ながらの御神輿渡御の継承が高く評価されています。

◆魅力その②：お囃子は小浜特有のもので、にぎやかな「しゃんぎり囃子」の掛け声は不思議な魅力があります。「すっちょい！すっちょい！」

◆魅力その③：夜は、闇夜に浮かぶ提灯が飾られた太鼓台が小浜四ツ角に集合し、一年を通して一番盛り上がる一夜を迎えます。

▲詳細はQRコードで

▲紋付祭は200年以上もの伝統を守り、受け継がれています

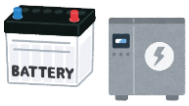
※市WEBではカラー刷「かわら版」を掲載中。《二本松市岩代集落支援員だより》と検索又は上の題字下QRコードにアクセス下さい。

～ごみの出し方講座④～

～もとみやクリーンセンターからのお願い～

電池や蓄電池（バッテリー）を使用した製品の出し方は、下の図の通りに分けてください！

もとみやクリーンセンターでは、電池類が原因と思われる発火が頻発しています。電池や蓄電池を使用した電化製品をごみに出す際は、取り外し可能かどうかで出し方が異なります。発火等の被害を防ぐためにもご協力をお願いします。



「自動車やバイクなどのバッテリー」や「乾電池回収袋に入らない蓄電池」は、もとみやクリーンセンターで処理が出来ませんので、専門業者へ依頼してください！

「ごみの分け方出し方」QRコード

＜絶縁処理の仕方とは？＞
★乾電池➡電極部分にセロハンテープやビニールテープを貼り付けてください。
★コイン型電池➡全体をセロハンテープやビニールテープで包んでください。

I Love Iwashiro ㉓
～杉沢・コキアのある風景～

岩代を愛する人がすすめる魅力あるスポットを紹介。二三回目は杉沢の菅野美智雄さんです。

杉沢の大杉の入り口にあたる国道三四九号沿いには、自然発生したコキアが可愛らしく並んでいます。昨年、幼い孫を喜ばせたるために、コキアのデコレーションを思い立ちました。以前、インスタで見かけたのですが、目玉を付けた様子が印象的だったんです。

▲今年のコキアはこぶりな印象です

なかなか思うように作れず試行錯誤を重ねた末にデコレーションが完成しましたが、思いがけなく色々な人がＳＮＳで紹介してくださり、わざわざ見に来てくれる人もいたのでびっくりしました。

今年は雨が少なくコキアが小ぶりなため目立ちにくく、何度か付け替えたりして苦戦中です。コキアの横には近隣の人が植えたブルーサルビアが綺麗に咲いています。車の通りが多いので気をつけておいでください。

▲昨年のコキア。「見ていて楽しい」とＳＮＳで話題に

◇紹介者◇
杉沢在住
菅野肥料店SS
菅野美智雄さん

「目玉はラミネート加工し、針金で茎に結んでいます。詳しい作り方が知りたい方は向かい側のスタンドに声をかけてください！」

岩代の歴史シリーズ
両属の将　石川弾正の生涯⑥

石川弾正顕彰会事務局長　日下部　善己（いしかわだんじょうけんしょうかい）

六　戦国の世を生き抜く知恵

石川弾正光昌は、戦国期の陸奥国塩松東部の小領主（国人・地侍・土豪等と呼ばれる）である。

国人とは、戦国大名ほど勢力が大きくないが、各地域（数村から数郡程度）の支配者として活動している中小の領主層をいう。

国人領主弾正光昌の領地経営の基本は以下の通りである。

①塩松東部一帯の支配者として自治権を持ち、領土保全・地域開発・領民保護に当たる。

②領地を単独では保持できないので、強力な戦国大名に従属して納税や労役・軍役の義務を果たす。一方で軍事的保護を受けるという双務的関係を結ぶ。

③戦国大名の家臣ではなく外様的存在であり、譜代の家臣団とは大名（主君）との関係が全く違う。

④複数の戦国大名と提携（両属）したり、自分の利益となる方に帰属替えをしたりする。

⑤戦国大名に従うのも、帰属先を替えるのも、自分の領地を維持し、領民を守るために過ぎない。

一見裏切りにも見えるこの両属や帰属替えは国人領主が戦国社会を生き抜くための処世術である。それは信州真田氏が強大な戦国大名上杉・北条・徳川への帰属を次々に替えた姿にも現れている。